

第12回電気絶縁材料シンポジウム

開催にあたって

絶縁材料常置専門委員会
委員長 家田正之

今度、一昨年大阪地区、昨年箱根地区に引続いて東京地区としては3年ぶりに第12回絶縁材料シンポジウムを開催することになりました。この間会議の開催方式にもポスターセッションおよびパラレルセッションの導入という新しい試みがなされ、東京会場も始めて金属健保会館に設定されました。ここに著名な国際的外国人特別講演者と多くの優れた論文発表者および熱心なる参加者をお迎えすることが出来、会議開催に至りましたことは、絶縁材料常置専門委員会の委員・幹事の献身的な御努力と電気学会内の関係各位、とくに電気材料技術委員会(委員長 成田賢仁氏)および絶縁材料耐熱性試験法(委員長 金子剛氏)、絶縁材料コロナ劣化(委員長 金指元憲氏)、絶縁材料耐電界性(委員長 能登文敏氏)の各常置専門委員会、原子力発電所用電線・ケーブル調査専門委員会(委員長 矢作吉之助氏)などの御協力と電気学会事務局の絶大なる御尽力による所が極めて大きく、厚く感謝の意を表する次第であります。

本シンポジウムが昭和43年10月第1回を開催して以来、一貫して主張してきたことは、わが国電気絶縁工学における学問、技術の質的向上、基礎と応用の有機的結合の強化、学際的色彩の強い絶縁工学の電気、電子、物理、化学、機械、制御などの専門家による総合工学としての発展、海外招待講演者との情報交換を通しての国際性の向上、次代を背負う若手研究者、技術者の育成などであり、その成果は過去11回の会議を通じての論文内容及び参加者の質的向上となって着実に現れているものと確信しております。

本年は外国人招待講演1件、特定テーマ4部門に51件の講演発表がポスターセッションを含めて予定されており、その内容は電気絶縁工学の最先端を進む極めて興味ある優れた学術的・技術的成果を数多く包含し充実したものであります。特に、本年始めて、オーストラリアとエジプトの2ヶ国からの厳しい言葉の障壁をのりこえて一般応募がなされたことは、本会議の国際性の認識に甚だ強い自信をもつことが出来ました。本委員会としましては今年より、全論文の英文アブストラクトを全世界の著名な研究機関に送付することを決定し、更に一段と本会議の国際性の向上と情報交換の場を広げたいと念じております。これはわが国、電気絶縁レベルの各国への紹介と、その相互理解を深める上に有効に機能するものと確信しております。

また本年の外国人招待講演者としては、英国、固体電気絶縁に関する世界的権威として有名なマンチェスター大学、R. クーパー教授をお迎えすることが出来ました。御多忙な日程のなかを当委員会の招待を御快諾下さり、親しく懇談の機会をお創り下さったクーパー教授を始め、種々、御尽力をいただいた関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

最近、電気学会内の機構改革に伴い、当絶縁材料常置専門委員会は更に巾広い活動が期待される絶縁材料技術委員会として、新発足することに内定し、本シンポジウムもこの線に沿って、益々その重要性を認識されんとしており、今後の発展が一層期待されるものであります。

電気絶縁工学も内外のエネルギー問題などに関連し、多くの解決すべき学術的、技術的

諸問題をかかえております。これらの期待に応えるべく、本シンポジウムの果す役割も一段と大切になりつつあるなかで、参加者各位におかれましても、これらの主旨を御理解いただき、会議を通して積極的に意見交換に御参加いただき、また準備しましたアンケートを通して、今後の会議運営に関する建設的御意見を寄せられることを御願いと共に、これらに沿って、今後の益々有意義なる会議への発展に尽力したいと念願しております。

第12回シンポジウム開催に際し、種々尽力された絶縁材料常置専門委員会の委員氏名は下記の通りであります。

〔幹事〕 日野太郎、田中祀捷

〔委員〕 犬石嘉雄、岡本英夫、河野照哉、斉藤省吾、蓬郷章郎、中北倫男、永野宏郎、夏目文夫、能登文敏、平林庄司、松葉博則、宮下隆雄、矢作吉之助、山田有一

〔参加〕 阿部伸一、相原 貢、一色節也、井関 昇、金指元憲、塚 孝夫、武 祐一郎、内藤克彦、西松峯昭、福田 正、藤田英夫、森内孝彦、森山寛厚、吉岡 浩

〔幹事補〕 新田義孝

また外国人講演者招待に御協力頂いた下記の関係各社に厚く御礼申し上げます。

昭和電線電纜株式会社、住友電気工業株式会社、

タツタ電線株式会社、大日本電線株式会社、

帝人株式会社、東京芝浦電気株式会社、

株式会社 巴川製紙所、日新電機株式会社、

日東電気工業株式会社、日本碍子株式会社、

株式会社 日立製作所、日立電線株式会社、

富士電機製造株式会社、藤倉電線株式会社、

古河電気工業株式会社、松下産業機器株式会社、

三菱電機株式会社、株式会社 明電舎 (五十音順)

ポスターセッションとは

今回13件の発表がポスターセッションとなっています。

これは発表者が、主要な研究成果のビラを用意し、それぞれ関心のある小人数の参加者の前で質疑応答を中心に研究発表するもので、参加者と発表者が深く討論出来ることを特徴としています。奮って討議に参加されることを切望します。